

60 『解剖学表』(『解体新書』の原著、  
いわゆる「ターヘルアナトミア」)  
異版の研究——第二報

石田 純 郎

新見公立短期大学

昨年の横浜の学会で、抄録提出後の成果も含め、ドイツ、オランダ、オーストリア、日本各地の『解剖学表』(いわゆるターヘル・アナトミア)『七〇冊の調査終了状態での第一報を報告した。それ以後、米国NIH医学図書館(Bethesda)で一五冊、カリフォルニア大バークレイ校で七冊、サンフランシスコ校で二冊、松木明知氏(弘前)蔵の一四冊を調査し、合計一〇八冊の調査を終了した。NIH本、松木本の中に、重要な稀版が含まれ、昨年の結論の一部を訂正した。

一八世紀の刊本は、同年同版であろうとも、一冊として同一形態の本はない。装丁、サイズ、図の挿入位置、製本、小口の色などが異なる。極端な場合、販売

時になされた他書との合冊さえある。また、図が折り込まれているという特異な形態の本であるので、出版後間もない時期での切り取り、最近の切り取り、貼り付け場所の移動のために、原型を確定するのが困難な場合もある。同年同版の根拠は、見開きの発刊年、発行所、図と文の原版が同一かどうかなどが、鍵となる。貴重書のために、同時に二、三冊の閲覧しか許されないことが多く、同一性の検討の障害となるが、複数図書館の訪問閲覧をできる限り短期間に頻回に行なうことで、記憶が薄れないように配慮し、調査した。

現在までにドイツ語版一四種、ラテン語版七種、オランダ語版一種、フランス語版一種の合計二三種の異版を把握し、昨年の報告より三種増加した。これ以外に文献にあるものの、実在が確認できない版が三版ある。

初版は一七二二年ダンチヒ・ドイツ語版で、薄くて小さい本文と二八図のみの書であり、「人革の図」がある。図は一七二五年版と同原版同形態で、数図で一葉をなしていたことが、NIH本で確認できた。第二

版は一七二五年ダンチツヒ・独語版で、「人革の図」と二二年版と同じ本文の後に、第二見開き、その後に小活字の註がまとめて掲載されている。

第三版以後は複雑である。同一内容の六種があり、一七三二年アムステルダム・ラテン語版、三二年アムス・羅語版、三四年アムス・フランス語版、三四年アムス・オランダ語版、三二年ダンチツヒ・羅語版、三二年ダンチツヒ・独語版である。これらは図版が鮮明で、「女執刀の図」を含む二八の図がある。一頁の上部に大活字の本文、下に小活字の註という特異な体裁である。同原版ながら、ダンチツヒの以前の出版社名でも羅語版、独語版が出た。

以後、一七四〇年アウグスブルク・独語版（アウグスブルクからのものは、すべてクルムス無許可版）、四〇年ニュールンベルク・フランクフルト・ライプチツヒ・独語版、四一年ライプチツヒ・独語版、四三年アムス・独語版、四四年アムス・羅語版、四五年アウグスブルク・独語版、四八年アムス・羅語版、五五年アムス・羅語版、五八年アウグスブルク・独語版、五九

年ライプチツヒ・独語版、六四年アウグスブルク・独語版、六五年アムス・羅語版、八九年ライプチツヒ・独語版、一八一四年ライプチツヒ・独語版が刊行された。

『解体新書』の原著はクルムス著の一七三四年アムス・オランダ語版であるが、その原著が同一出版社 Janssons von Wasberg社刊の一七三一年アムス・羅語版か、三二年アムス・羅語版か、三二年アムス・独語版か、はつきりしない。翻訳者のディクテンはラテン語を理解していたし、各版の内容が同一で、三四年オランダ語版に原著の言及がないためである。

稀版がNIHと弘前で把握されたために、オランダ語版の原著が前報より明確に言えなくなってしまった。おわりに、松木明知氏の厚意に深謝する。